

第3回宇宙科学・探査部会 議事要旨

1. 日時：平成25年5月15日（水） 10：00－12：00

2. 場所：内閣府宇宙戦略室5階会議室

3. 出席者

(1) 委員

松井部会長、薬師寺部会長代理、家森委員、小野田委員、櫻井委員、田近委員、永原委員、山川委員、山崎委員

(2) 事務局

明野宇宙戦略室審議官、國友宇宙戦略室参事官

4. 議事要旨

(1) 平成26年度宇宙科学・探査関連予算の概算要求の考え方についてのヒアリング

JAXAから資料1について説明をした。概要は以下の通り。

○ロードマップについては、コミュニティ等とロードマップの考え方を十分に共有するため、配慮が必要と考えており、1～2年かけてまとめたいが、方向性や重点領域など半年程度で示していきたい。

○概算要求の考え方としては、既存プロジェクトの打上げ目標年度を守ることを優先するものとしている。

○小惑星探査機「はやぶさ2」については、対象天体の軌道の関係と、日本の独自技術を確立し国際的に優位な地位を保ちたいとの観点から、平成26年12月の打上げを維持したい。

○X線天文衛星（ASTRO-H）については、日米協力のプロジェクトであり、日本の責務を果たし、世界の科学コミュニティからの高評価・信頼に応えるよう、平成27年度の打上げを着実に目指すことが必要。

○ジオスペース探査衛星（ERG）については、小型科学衛星の標準バス技術を活かし、効率よく開発できている。太陽活動期にあわせ各国の衛星と協力し観測するため、平成27年度の打上げを着実に目指すことが必要。

○水星探査計画（BepiColombo）については、ESAとの国際協力であり、欧州が担当する打上げの時期にあわせて着実に開発を進め、スケジュールどおりESAへ引き渡すことが必要。

○その他、将来の宇宙科学プロジェクトの創出に向けた研究等を着実に進める他、新たに海外衛星等へのJAXA観測機器の搭載など多様な機会を利用した小規模プロジェクトにも取り組む。

説明の後、委員から、以下のような意見があった。

○ロードマップをまとめるのに1～2年というのは時間がかかりすぎではないか。

○はやぶさ2については、軌道の制約だけでなく、国際競争にも負けないためにも打上げ目標年度を守るべき。

○ASTRO-Hの打上げ余剰能力はあるのか。どう活用するのか。

○SPICAは規模の大きなプロジェクトであり開発着手の判断は慎重に行う必要がある。

○月探査については、基本計画にも記述はなく、ここで示されることは奇異に感じる。

○ISASは、JAXAの中で宇宙科学の担当として独立していると理解しているが、予算に対する意気込みが感じられない。

○どこに、どれだけ、どういう予算がかかるのかが不明であり、これでは優先順位は決められない。

(2)「平成26年度宇宙開発利用に関する戦略的予算配分方針」に対する宇宙科学・探査部会の意見(案)について

事務局から資料2について説明をしたが、十分な議論が行えず、次回再度議論することとなった。JAXAの宇宙科学・探査関連予算に関する質問があれば、5月22日水曜日までに事務局に提出し、次回、JAXAから回答することとなった。

(3) その他

今回は、

① JAXAからロードマップのたたき台となる資料の提出を受け、ロードマップについて意見交換

② JSPECとISASの整理の検討状況について、JAXAより聴取

③ ASTRO-Hの打上げ余剰能力の活用の検討状況について、JAXAより聴取

を行い、議論することとなった。

以上